

平成 24 年度事業方針

社会福祉法人 四天王寺福祉事業団

昨年度は世間では震災対応に始まり世相の激変があった。しかし、我々に求められることはこれまでどおり、あるいは以前にもまして我々の目指す方向とよく一致している。長らく足踏み状態であった行政もこれ以上の停滞を許さない社会情勢に押されさまざまな改定が今後予定されているが、「自立、責任、自律」をキーワードに法人の理念に基づき運営していきたい。

我々は昨年度を「守、破、離」の「離」と位置づけて取り組み、一応の成功を得た。本年度は「守」に立ち返り PDCA サイクルにおける Check Action の過程につなげたい。当然、年度が変わり人員構成が異なる部署も多いはずであるが、縦横の連携によるネットワークでサービスの質を落とさずこれを遂行することが求められる。

運営については「ヒト、モノ、カネ」あらため「労務、サービス、財務」の三本柱の強化を継続して行う。

労務については Do-CAP シートをツールとして育成状況の確認を普段から行う。また、副部長を核として Do-CAP シートの認識の共通化を進め、人材育成に取り組む。

サービスについては標準書が定着しつつあるが、PDCA にあたる計画性、実行性、点検、再計画それぞれに甘さが残るので一層の強化に努める。また、標準書のメンテナンスに資するため、スタッフへの標準書の浸透、能力強化および記録の見直しに取り組む。

財務については法人の役割資格等級基準に基づく執行責任の自覚および報告機能の強化を行い、正確な計画の実施、資金管理に取り組む。三本柱を強化する横軸として各種委員会・PT による連携を中心に横断的な議論の場を増やし経営に反映していきたい。

経営リスクについては改定されたリスクモデルを運用し、法人内外ルールの徹底と検証に取り組む。施設においてもリスクモデルに照らしながらの運営を推進する。

危機管理については部長、副部長、施設長の連携強化により一層の情報のスピード、質および量の向上を目指す。これまでの傾向から浮かび上がったのは、やはり平時からのご利用者やご家族とのコミュニケーションによるラポール形成の重要性であり、不断の努力が望まれる。また、個人プレーに終わらないよう職員間の連携が同時に求められる。

昨年度、担当部長ならびに副部長制度を実施したことで法人内の連携強化の進展を見た。

この経験を活かし、責任分担および職務分掌の精度の向上を目指す。とかく陥りがちなセクショナリズムについては相互牽制が有効に機能するよう人員構成のメンテナンスを行う。

本年度 8 月に完了予定の悲田院高齢者複合施設建て替え工事については、すでに本体建物の引き渡しを受け、運用を開始している。今後はハード面と同様、ソフト面の先進的なサービスの開発・提供に取り組む

我々のご利用者の笑顔を永続的なものとするため、経営の安定を謳い分析を行ってきた。今後も蓄積された分析に基づき、介護保険施設だけでなく措置施設といえども利用者本位のサービスへの転換を推進する。

当法人は、東日本大震災のためイベント等は控えたが平成 23 年 7 月で 80 周年を迎えた。本年度は再度 1 年目のつもりで聖徳太子の御聖旨に立ち返って臨みたい。